

basic の見立て（立位）

身体の歪みの原因を、上肢・下肢・体幹の三択にする

全身



- ・首を回旋して左右差や硬さを確認する
 - ・問題のある側を患者にも確認する
- あくまでも可動域（ROM）を指標にするが、痛みなどの患者の感覚も聞くことで、実際の可動域との違いを認識してもらえ+信頼 UP

※この時点で問題なければ自律神経の見立てへ

上肢



- ・肩関節を関節性の OFF にして首を回旋する
- ・可動域に改善があれば上肢の歪み
- ・主訴に改善があるか確認する

下肢

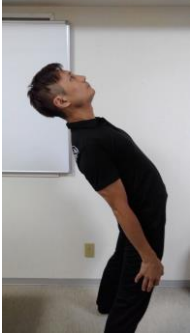


- ・股関節を関節性の OFF にして首を回旋する
- ・可動域に改善があれば下肢の歪み
- ・主訴に改善があるか確認する
- ・上肢と下肢で変化がなければ体幹の歪み

自律神経の見立て（立位）

発生的に進化の過程で考える

内臓



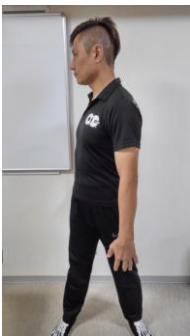
- ・ 無脊椎動物（昆虫など）の動きは前後屈
- ・ 後屈で硬さを確認する
- ・ さらに細かく診る場合は内臓の見立てで各臓器毎に確認する
- ・ 特に縦隔の場合は脳の緊張とも関連するので注意

脊髄



- ・ 脊椎動物（魚など）の動きは側屈
- ・ 硬さと左右差を確認する
- ・ さらに細かく診る場合は体性神経系の見立てで歪みを確認する

脳



- ・ 哺乳類（人間など）の動きは回旋
- ・ 硬さと左右差を確認する
- ・ 体性神経系の緊張により回旋制限がある場合もあるので、あわせて確認する

basic の見立て

立位



- ・肩甲骨を下制内転させて肩甲骨が挙上すれば挙上した側の上肢の歪み



- ・乳様突起と耳たぶの左右差で低い方に頭蓋骨が歪んでいる
- ・乳様突起（脳頭蓋）と、耳たぶ（顔面頭蓋）の歪みが同側でない場合は内臓を疑う

下肢



- ・膝と股関節を屈曲して屈曲制限があれば下肢の歪み
- ・左右差を確認する

体幹



- ・膝と股関節の屈曲位で倒して制限があれば体幹の歪み
- ・左右差を確認する（膝を左に倒して制限があれば右の体幹の歪み）

頭蓋骨



- ・ 乳様突起（脳頭蓋）と頬骨弓（顔面頭蓋）の左右差で低い方に頭蓋骨が歪んでいる
- ・ 仰臥位が本来の頭蓋骨の歪みなので、立位での歪みと変化があれば、頭蓋骨の歪みより強い歪みが身体にあるということ（その場合は先に身体を整える）

上肢



- ・ 肘を屈曲して制限があれば上肢の歪み
- ・ 左右差を確認する

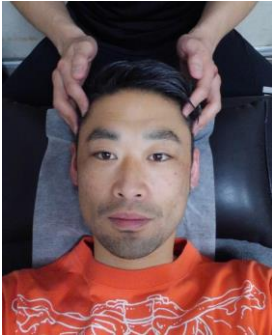
伏臥位



- ・ 膝を屈曲し制限があれば、制限がある側の半身に歪み（下半身だけでなく上半身の歪みも影響する）
- ・ 仙骨が真直ぐになる位置にした時の左右差を確認する

自律神経の見立て（仰臥位）

脳



- ・ 頭の筋肉の緊張があれば自律神経の脳の緊張
- ・ 頭蓋骨の歪みから頭の筋肉が緊張して、脳が緊張する場合もあるし、ストレスなどにより脳が緊張して頭の筋肉が緊張して頭蓋骨が歪むこともある

内臓



- ・ 腹部を押してみて硬さがあれば自律神経の内臓の緊張
- ・ 腹斜筋など体幹部の緊張によって全体的に緊張している場合もあるので注意する
- ・ さらに細かく診る場合は内臓の見立てで各臓器毎に確認する

脊髄



- ・ 踵を持って重さがあれば自律神経の脊髄の緊張
- ・ 脊髄の通る脊椎の緊張＝脊柱起立筋群（SBL）の緊張があると脚が重くなる
- ・ 左右差を確認して重い側の指や趾の緊張を改善する